

地質ニュース

昭和53年6月

第286号

1978

解説	昭和53年度の地質調査所の研究(1).....企画室	1
	御荷鉢構造線と唐越礫岩.....甲藤次郎	11
	昭和51年における日本の物理探査活動.....小市小 林川野 金吉	20
	わが国における大深度ボーリングの現状④.....加藤 藤藤	24
	電卓シリーズ(6) 地質学向きのやさしい会話型 プログラミング言語ベーシック.....小出仁	30
国際会議	水中火山岩の地質に関するペンローズ会議報告.....山田 富三	38
	日米天然資源会議(UJNR)海底地質専門部会 第4回日米合同会議および関連会議の出席報告.....盛谷 智之	42
	東アジアにおける地質構造と炭化水素および金属鉱物資源 CCOPのIDOE計画について(Ⅲ)―(1).....佐野 俊一	52
	ラテン語と学術用語.....山田正春	58
	利島 TOSHIMA.....一色直記	64

編集 地質調査所

表紙の写真

皿状構造

日南海岸は波蝕台上に砂泥互層の見事な縞模様(鬼の洗濯板)がかもしだす素晴らしい景色で有名である。写真は堆積構造の一種のうちのdish structure(皿状構造)と呼ばれるもので日本では1974年3月筆者によって初めて発見され、宮崎県日南市大堂津駅北東東方向、約1,500m、猪崎半島盤台西海岸でみられた露頭である。

この皿状構造は砂岩・泥岩細互層中の泥岩に挟まれた厚さ200~230cmの一枚の厚い砂岩単層の下部付近にみられる。この断面を観察すると黒色の線状の葉理によって、あたかも皿の断面をみるような形態を示すために皿状構造と名づけられた。その形は皿状断面で、下方へへこみ、そのへこみの度合は非常にゆるやかなものからU字形を作るようなものまでである。その幅は2.5~3.5cmで、約10cmに近いものまでである。高さは1~3cmである。地層は日南亜層群の上位の滝ヶ平山層(漸新-中新世)。なお詳しいことは地質調査所月報 第25巻 第9号 P.58-59を参照。(文 長浜 春夫)

発行 株式会社 実業公報社